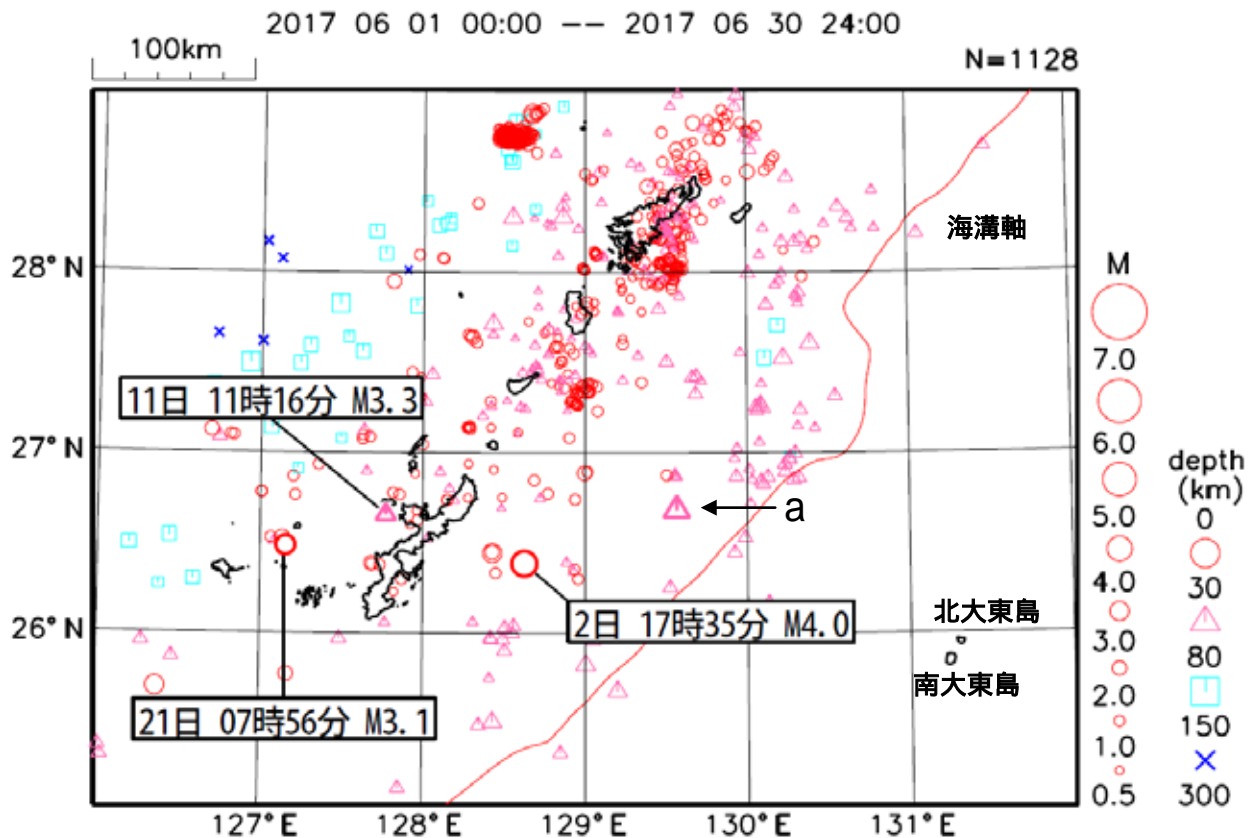


地震活動図

2017年（平成29年）6月

南大東島地方気象台

震央分布図



震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

[概況]

今期間に大東島地方、沖縄本島地方とその周辺（図の範囲内）を震源とする地震の回数は1128回（5月は741回）、M4.0以上の地震は3回（5月は1回）でした。なお、沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震は3回（5月は4回）でした。

2日17時35分に沖縄本島近海（那覇市の東北東約100km）で発生した地震（M4.0、深さ24km）により、国頭村で震度1を観測しました。

11日11時16分に沖縄本島近海（那覇市の北約50km）で発生した地震（M3.3、深さ47km）により、沖縄本島で震度1を観測しました。

21日07時56分に沖縄本島近海（那覇市の西北西約60km）で発生した地震（M3.1、深さ12km）により、渡名喜村で震度1を観測しました。

今期間最大規模の地震は、20日05時32分に沖縄本島近海で発生したM4.4の地震（図中a）でした。

大東島地方、沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の表 (期間: 2017年6月1日~30日)

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2017年06月02日17時35分 沖縄県 震度 1: 国頭村辺土名*	沖縄本島近海	26° 23.2' N	128° 37.5' E	24km	M4.0
2017年06月11日11時16分 沖縄県 震度 1: 名護市港*, 国頭村奥, 国頭村辺土名*, 今帰仁村仲宗根*, 本部町役場*	沖縄本島近海	26° 39.3' N	127° 46.3' E	47km	M3.3
2017年06月21日07時56分 沖縄県 震度 1: 渡名喜村渡名喜*	沖縄本島近海	26° 29.0' N	127° 09.4' E	12km	M3.1

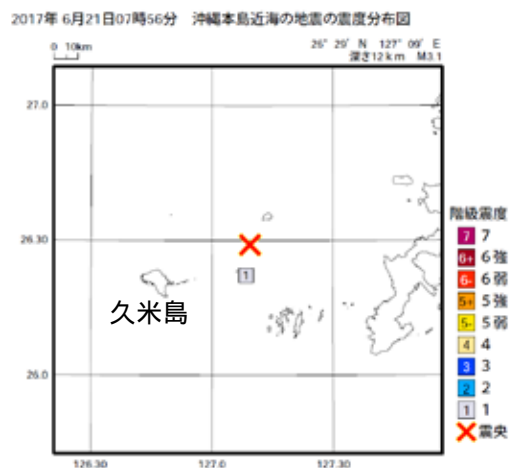
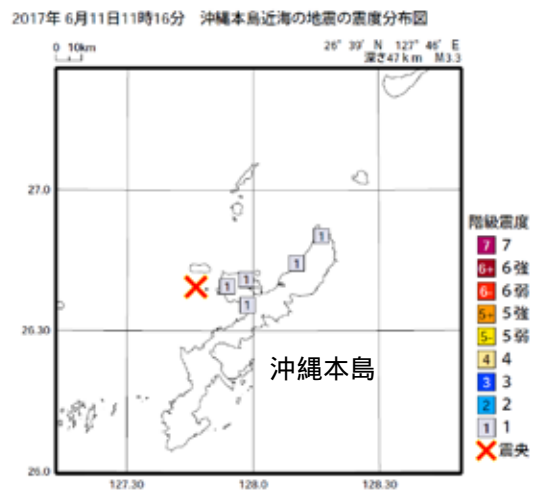
*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。
 表中に掲載した震度は、沖縄県内で観測した震度です。
 震源要素は暫定値で、後日の調査で変更されることがあります。

資料中のデータについて

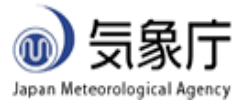
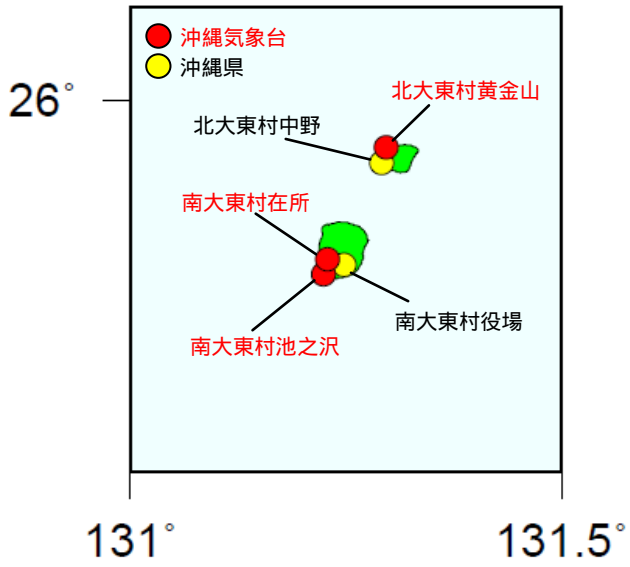
この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方、沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布



大東島地方の震度観測点



本件に関するお問い合わせ先
(南大東島地方気象台)

電話 09802-2-2006

<http://www.jma-net.go.jp/daitou/>

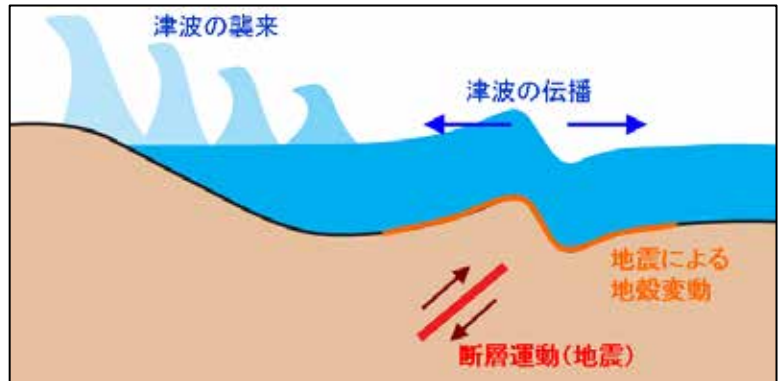
津波を知って、正しく身を守ろう！

暑い季節になり、海水浴などに行く機会も多くなると思いますが、規模の大きな地震により津波が発生すると命を落とす危険があります。被害を少しでも小さくするために、津波の特徴を知って身を守る行動を取れるようにしましょう。

[津波の特徴]

津波はどうやって発生する？

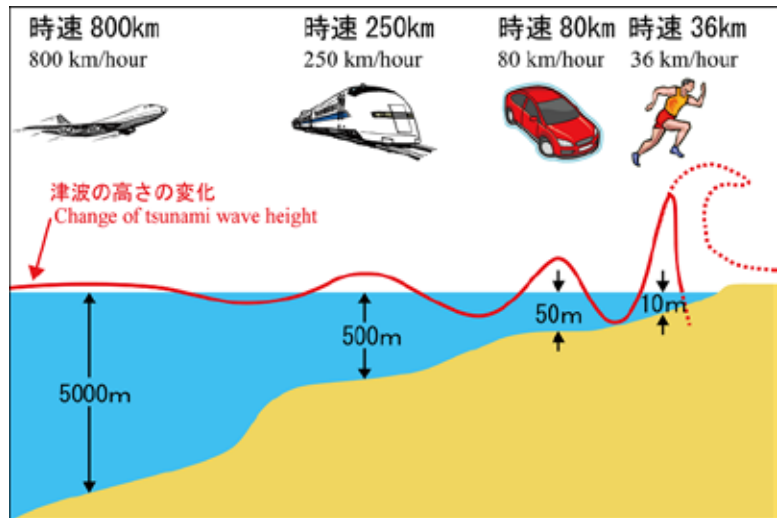
海底で大きな地震が起こると、海底が持ち上がり下がりするのに伴って海面が変動し、大きな波となって周囲へ広がるのが津波です。



海岸で突然大きくなる！とても速い！

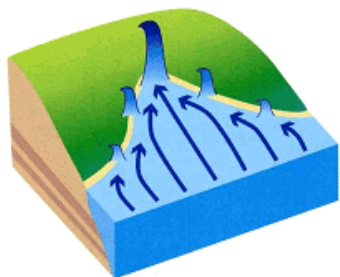
津波は、沖合ではジェット機ほどの速さで進み、水深が浅くなるにつれて次第に遅くなります。海岸付近では、海底が浅くなることに加え、後続の速い波に追いつかれることで津波の高さが急に大きくなります。ただ、水深が浅いところで遅くなるといっても、オリンピックの短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人々が走って逃げ切れるものではありません。

沖合から押し寄せる津波は押し寄せるスピードも速いことから、津波が見えてからでは逃げ切るのは困難です。

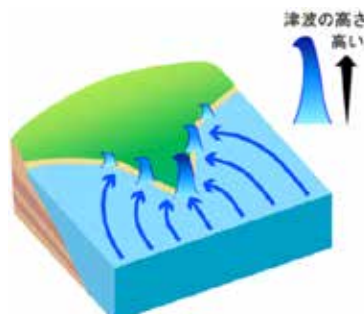


湾や岬でも津波は大きくなる！川も危険！

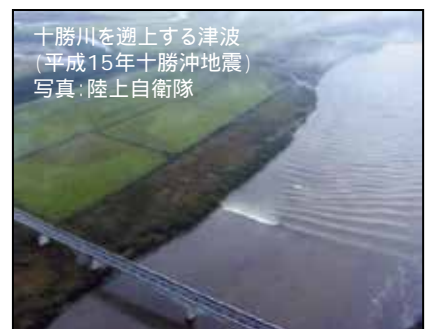
海岸の地形によっても、津波が大きくなる場合があります。V字型の湾の奥や岬の先端にいるときは危険です。また、河川も遡上してくるので、川の近くにいるときも注意が必要です。



V字型の湾の奥



岬の先端



十勝川を遡上する津波
(平成15年十勝沖地震)
写真: 陸上自衛隊

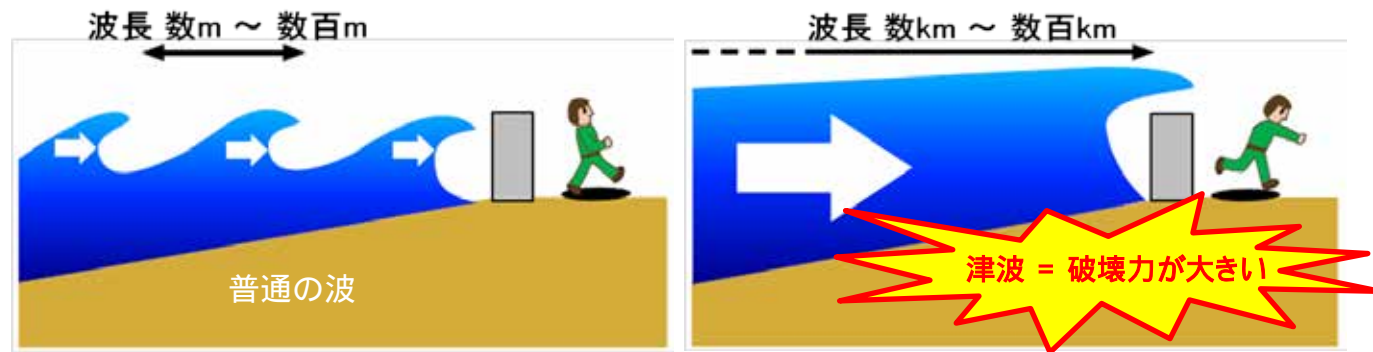
河川の近くも危険

津波はくり返し襲ってくる！

最初の波より後からやってきた波のほうが大きいことがあるので、津波警報などが出ている間は避難を続けましょう。

数十cmの津波でも危険がある

風が吹くことで起こる普通の波は海面付近だけが動くものですが、津波は海底から海面まで全てが移動するエネルギーの大きな波です。たとえ数十cmの津波でも、人が海に流されることがあります。



[津波から身を守る]

すぐに海岸から離れる

ビーチなど海の近くにいるときに、強い揺れや、弱くてもゆっくりした揺れを感じたとき、または地震を感じなくとも津波警報などが発表されたときには、すぐに海岸から離れましょう。

「より高いところ」を目指してにげる

土地の低い場所は津波におそわれやすいところです。海や川からはなれ、高いところへ逃げましょう。



テレビや携帯電話などで常に津波の情報を確認！
大津波警報や津波警報・津波注意報を見聞きしたときは、海に近づいたり様子を見に行ったりしてはいけません！



地震・火山に関する情報は
沖縄気象台ホームページまで

<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

検索

